

市政レポート 第3号

2026年8月



初当選から1年。声を市政へ。

市議会議員として活動を始めてから、1年余りが経ちました。この間、市民の皆様から、生活や地域のお困りごとや市政に対する意見について、様々な声を伺ってきました。

声を聴く、現場を見る、議会で問う。そして政策につなげる。この積み重ねをしていくことこそが、市議会議員の大切な仕事だと考えています。

これからも市民の皆様の声と真摯に向き合い、目の前の課題と将来の出雲市の双方を見据えながら、出雲を次世代につなぐために、全力で取り組んでまいります。

1年間の活動報告（令和7年4月～令和8年8月）



聴く

市民の皆様からのご相談

道路河川の維持管理、子育て支援

独居高齢者支援、有害鳥獣対策 他



見る

現場訪問・ヒアリング

213回



問う

一般質問で取り上げたテーマ

地域経済 | 子育て支援 | 孤独・孤立対策 |

身寄りのない高齢者支援 | 出雲空港・航空路線

※ 一般質問のその後の状況を4ページに掲載しています。

プロフィール

1986年斐川町阿宮地区生まれ。斐川西中学校、出雲高校、早稲田大学・同大学院を経て、出雲市役所11年、経済産業省2年。2025年出雲市議会議員に初当選。39歳、2児の父。保護司。島根県カローリング協会会長。

市政レポート 目次

ご挨拶
1年間の活動報告
プロフィール

3月議会一般質問の要点
6月議会一般質問の要点

各種活動のご報告
あの質問どうなった？



#三加茂けいすけ
#出雲を次世代につなぐ。
#出雲市議会議員
#39歳2児のパパ
#早稲田大学大学院修了

2028年を見据えた出雲空港の首都圏航空戦略

出雲―羽田便は好調な利用が続く一方、2028年以降、使用機材の小型化により座席数が減少することが見込まれています。市内で次々とホテル建設が進むなど、観光需要が高まるなか、首都圏から出雲への「人の流れ」をどう確保するか。成田空港の「第2の開港」も見据え、将来の首都圏航空戦略を質問しました。

①羽田便の機材小型化による座席供給減への対策は



三加茂

出雲―羽田便では、2028年から現在のボーイング767に代わり、より小型のエアバスA321neoが順次導入される予定です。1便当たり40～80席程度の減少が見込まれるなか、観光やビジネス需要を支える座席数を確保するため、どのような対策を講じますか。

現在の座席数を維持するためには、現行の1日5便から増便し、1日当たりの座席数を確保する必要があると考えています。21世紀出雲空港整備利用促進協議会を通じ、これまでも航空会社に大型機材での運航を要望しており、機材小型化に伴う座席数減少への対応についても要望していきます。



総合政策部長

②成田空港の「第2の開港」を見据えたLCC誘致を



三加茂

成田空港では2028年度に滑走路の新設・延伸により、年間発着枠が約30万回から約50万回へ拡大する計画です。羽田便の座席数減少を補い、若者や外国人観光客など新たな需要を取り込むため、出雲―成田間のLCC（格安航空会社）誘致に取り組むべきではないでしょうか。

成田空港と出雲空港を結ぶLCCの就航は、首都圏からの移動手段の選択肢を増やし、外国人観光客やこれまで飛行機を利用しなかった方にも大きな利点があります。現時点で具体的な誘致計画はありませんが、「第2の開港」の動向を見据え、県と連携しながらLCC誘致に向けた対策を検討していきます。



総合政策部長

③市長自らトップセールスを



三加茂

航空路線の誘致には、事務レベルの調整だけでなく、「地域としてどこまで本気なのか」という意思を示すことが重要です。県と連携しつつ、成田空港関係者やLCC航空会社に対して、市長自らトップレベルで働きかける考えはありますか。

航空分野に限らず、常にトップセールスに努めています。県や21世紀出雲空港整備利用促進協議会と一体となって取り組むとともに、LCCについても様々な機会を捉えて取り組んでいきたいと考えています。



飯塚市長

三加茂の考え

航空路線は単なる交通手段ではなく、観光や地域経済を支える重要な社会基盤です。出雲空港の首都圏路線を考えると、羽田空港は発着枠に余裕がなく増便交渉が難しいことに加え、現行の滑走路や施設条件では、現在の羽田便より大型の機材を運航することは困難です。こうした状況を踏まえると、**成田空港からのLCC誘致は、首都圏との輸送力を確保するうえで重要な選択肢です。**空港管理者である島根県だけに対応を委ねるのではなく、**空港所在地である出雲市が明確な意思を示し、県や航空会社など関係者への働きかけを強めることが重要です。**

地元企業の新しい価値創出を支援する地域経済政策

人口減少や人手不足が進むなか、地元企業が賃上げを続けるには、その原資となる「付加価値」を高めることが重要です。地域での消費を促す政策に加え、企業が新しい価値を生み出すための支援をどう強化するのか。令和7年6月議会で取り上げた地域経済政策をさらに掘り下げ、市の考えを問いました。

①地元企業の新しい価値の創出をどう支援する？



三加茂

市内で消費を促す「いずも縁結びPAY」などの取組に加え、持続的な地域経済の成長には、地元企業が賃上げや投資の原資となる付加価値を生み出す力を高めることが重要です。今後、付加価値創出の観点から、さらに伸ばすべき機能や強化すべき政策分野をどのように考えていますか。

今後の労働力減少を見据えると、デジタル化やAIの導入による業務の省力化や、新たなサービスの創出が重要です。市ではデジタル化への補助、IT企業とのマッチング、セミナー開催、ミライビジネスいずもによるAI導入の伴走支援などを行っており、今後も支援機関と連携して取り組みを進めます。



商工振興部長

②企業をつなぎ、人を育てる支援体制の構築を



三加茂

企業同士をつなぎ、新たな商品やサービスの創出を支援するため、ミライビジネスいずものコーディネート機能を強化してはどうでしょうか。また、AIやデジタル、販路開拓など、多くの企業に共通する課題について、市、ミライビジネスいずも、市内商工団体が連携し、「オール出雲」で人材育成に取り組むことを提案します。

企業間のマッチングや販路開拓等の支援は重要です。ミライビジネスいずもの職員の知識・経験を高めながら、必要に応じて外部専門人材も活用し対応します。人材育成も、商工団体等と情報共有し、事業の共同開催も含めて調整していきます。



商工振興部長

③地域経済の将来を官民で議論する場を設けるべき



三加茂

個々の企業への支援にとどまらず、産学官金連携等により付加価値を生み出す仕組みを考えることが必要です。現在の地場中小企業・小規模企業振興会議を活用し、企業誘致施策も含めて、これからの地域経済政策や産業振興を官民で議論する場として、機能を強化してはどうでしょうか。

地域経済の振興に向け、産業の付加価値をどのように生み出すかという視点は非常に重要です。付加価値創出の仕組みづくりについて、振興会議での議論のあり方や、次期計画における指標の設定も含めて検討していきます。



商工振興部長



三加茂の考え

地域経済の持続的な成長には、地元企業の生産活動によって生み出された付加価値が所得として分配され、その所得が地域内で消費される「**地域経済の好循環**」をつくる**ことが重要です**。そのためには、地域内での消費を促す政策に加え、地元企業の技術や資源を組み合わせた新たな商品・サービスの創出を支援していく必要があります。**市が地域経済の将来像を示し、ミライビジネスいずも、商工団体、金融機関等と共に、地域全体で地元企業の成長を支える体制づくりを進めるよう、引き続き提案していきます。**

松下政経塾訪問



3月に神奈川県茅ヶ崎市にある松下政経塾を訪問しました。尾関塾頭のご案内のもと、アーチ門や教室などを見学させていただき、意見交換をさせていただきました。

フードドライブに参加



7月に大学の先輩方と一緒に出雲市社会福祉協議会が主催された第13回フードドライブの仕分けのボランティアに参加させていただきました。

出雲空港の現場を視察



6月議会の一般質問議会を踏まえて、7月に会派で出雲空港を訪問し、直近の出雲空港の現状と課題について意見交換をさせていただきました。

あの質問どうなった？

令和7年9月議会で質問した、「家事育児訪問サポート事業」の対象者拡充とクーポン券の配布について、その後の状況をご報告します。新年度予算の会派要望、会派代表質問で関連質問を実施しています。家事育児サービスの提供体制の状況も踏まえながら、これからも子育て環境の充実のために力を尽くしていきます。



令和7年9月議会 一般質問

家事育児訪問サポート事業の対象年齢を小学校就学前まで拡大するべき。

制度の認知度向上と利用促進のため、初回利用を公費負担とし、母子手帳交付時にクーポン券を配布できないか。



執行部答弁

県事業に基づき実施しているため、現時点では対象年齢の拡充は考えていない。

現時点では妊娠・育児支援サービスを提供する事業者数が限られているため、クーポン券の配布は困難。



その後

所属会派の令和8年度予算要望で飯塚市長に要望しました。

令和8年3月議会の会派代表質問で鐘推議員から関連質問を行なっていただきました。

編集後記

今年は同窓会の一年になりそうです。秋には高校の大きな同窓会が、来年1月には中学校の「四十二会」が控えています。準備で大変なことも多いですが、たわいもない話で盛り上がるのが、結局一番楽しかったりします。昔の続きに今があることを再確認する年になりそうです（圭祐）

LINEでミニ集会等のイベントのご案内や市政レポートの配布を予定しています。ぜひ右のQRコードからご登録ください。



【発行者】三加茂けいすけ後援会事務所

699-0611 島根県出雲市斐川町阿宮408-5

公式サイト <https://mikamo-keisuke.jp>

電話 080-6194-2899

メール contact@mikamo-keisuke.jp